

真田坂

1面／巻頭言「消費者が街に求めるもの」
2面／特集「直撃インタビュー・真田坂に一言」
(連載 ストリート・インタビュー 拡大版)

3面／暮らし百科
「秋のファッション・コーディネート」

4面／銘店探訪「たきぜん」

5面／今月の特選品
庄村万年筆店 推薦「秋の夜長、万年筆で手紙をしたためる」
フードショップみやした 推薦「リンゴ&松茸」
街歩きエッセイ③「真田坂の裏、長屋の屋根」

6面／商店主図鑑 安田たばこ店主 安田 眞 氏
コラム「街おこしを考える」
「真田坂への要望にどう応えるか」

7面／真田坂的料理「野菜たっぷり雑炊」
売れ残りミュージアム③
「電卓付きシャープペンシル&円形計算尺」

真田坂イベント情報

「専門店のプロの技をお教えます」
11月24日(木)～26日(土)開催

特集●直撃インタビュー
「真田坂に一言」

表紙・市内在住●山崎晴江さん
(キネマギャラリー・幻灯舎オーナー増田芳希氏からのご紹介)

第3号●巻頭言
消費者が街に求めるもの

印刷メディア界では「3号誌」という言葉がある。鳴り物入りで発刊した雑誌などが人気を得ず、発刊から3号で終わってしまうことだ。フリーペーパー「真田坂」も今回が第3号。果たしてこのジंकウスを乗り切れるのか?と、心配しながらも、真田坂を手に持つて買物に来る読者がいるという。少々、手前味噌となったが、今後ともよろしくお願い申し上げる。さて、このフリーペーパーには、街を訪れる買い物客や通行する人々の生の声を取り上げて誌面に発表し、松尾町商店会の活性化のヒント、街づくりの方向性を探る役割がある。そして、消費者である読者が参加するイベントの展開より良い街づくりなど、お客様と商店主たちをつなぎ、様々な事業、提言を試みたいと思っている。

そこで、今回の特集は「直撃インタビュー・真田坂に一言」である。いわば連載の「ストリート・インタビュー」の拡大版だ。現在の真田坂・松尾町を、お客様はどのように見ているのか、街頭および店頭で約50名の方々にインタビューした。良いところ、悪いところ、こんな店やあんな施設が欲しい、不便な点は…。商店主たちが店内で聞くお客様の話は、そのほとんどが商品やサービス、日常の何気ない話だ。「商店会活性化の為に一言お聞かせ下さい」と、改めてお聞きすると、実に様々な声があがるのである。

年代によって異なるが、「長年馴染んでいるので、こういうものだと思う」という意見から始まり、「駐車場が欲しい。あつたとしても分かりにくい。駐車場案内を」と定番の要望。若者たちは「ファッション・ショップ、古着屋があればうれしい」、「気軽に一休みできて、お茶が飲める喫茶店がもっとあれば」、「ワンコインランチの店を」等々、出てくる出てくる。また、11月末に開催する商店会イベント案「専門店のプロの技をお教えます」のテーマと教わりた内容もアンケートした。

インタビューにご協力いただいた皆様はこの場を借りて感謝申し上げます。皆様からいただいた貴重なご意見は、早速、11月末のイベントに反映させようと思っている。また、街づくりや活性化へのご意見は、一日も早く実現出来るよう検討したい。皆様と共に「真田坂・松尾町商店会」を育てていきたいと考えている。

特集●直撃インタビュー「真田坂に一言」

消費者と商店街のコミュニケーション

生まれ育った町の商店街を改めて考えたことがあるだろうか。馴れ親しんだ街は、「あつて当たり前なもの」、「今更なに考えるの」、「古臭くてつまらない」、などと、誰でも思うのではないだろうか。

消費者は「新しさ」を求め「流行のスピード」に敏感だ。店主たちも消費者の動向を知るため、最新情報をリサーチし商品の構成をしている。しかし、「時代に疎い」と思われてしまうのが商店会なのだ。悪いイメージは、消費者と商店会のコミュニケーション不足からくる「誤解」かもしれない。

コミュニケーションは「待ち受け」の姿勢が一番悪いという。「問いかけ」か

真田坂を通行する方々へインタビュー調査



義母とお孫さんお孫さん3代で真田坂へ

ら始まり、幅広く意見を聞き、拾い上げ、問題点の核心を突く「答え」を抽出する。そして、街全体の環境、個店のイメージ、催事などのソフトウェア、商店会を構成する様々な要素に落とし込みより良くなった商店会活動を消費者にフィードバックする。本来のマーケティングの姿だ。

対面アンケート「真田坂に一言」

そこで、9月の中旬に「真田坂に一言」という対面インタビュー形式のアンケート「松尾町について、どんなことでもよいので一言お願いします」を行った。街頭で17名、店頭では34名の方々に、「皆さんの声を商店会活性化策に生かします」と問いかけ、様々な貴重なご意見をいただいた。結果は次のとおりである。

【街の全体的なイメージ】

慣れ親しんでいるほのぼのとした良い街……34%
空き店舗が増えて心配……22%
各店スタッフの対応が良い……22%
松尾町ギャラリー、幻灯舎などがあるのが良い……11%
通行する自転車やスピード出しすぎて怖い……11%
【施設・環境への要望】
駐車場が欲しい。あるのならかなりやすい案内をして……49%
駅から長い坂なのでベンチが欲しい……9%
公園・公衆トイレが欲しい……9%
車道を広くして「一時停車」できるように……9%
花と緑等で街全体を飾って欲しい……9%
店の案内が欲しい……9%
冬の歩道凍結対策、アーケード復活の要望……6%
【こんな店が欲しい】
お酒落しオープンカフェ、子供も入れる喫茶店等……44%
レストラン、飲食店、ワンコインランチの店……16%
惣菜の店……8%
若者向けファッション店……8%
古着屋……5%
パン屋……5%
インテリアショップ、雑貨屋、レンタルDVD、銭湯とマッサージ、パソコンショップ、蚕糸関連手織物の店、上田らしい夢のある店……各2%

体験型商店会イベントで「教わりたいこと」

現在、松尾町商店会では11月末に開催する商店会イベントを企画・検討している。各店、松尾町ギャラリーなどで、専門店の知識や技を体験型のワークショップで実施し、暮らしに役立つ優れた、様々な知恵をお客様に提供しようというものだ。

対面アンケートでは、このイベントに関して、『松尾町では11月に「専門店のプロの技をお教えします(案)」というイベントを計画しています。どのようなテーマに興味がありますか?』と、用意した25項目の中から複数回答で投票いただいた。

12票◎レストランのシェフがお教えるワインに合う料理教室/5歳若く見えるヘアスタイル教室
11票◎ジャム屋がお教えるジャムを使った料理・メニュー/薬局がお教える健康講座



昼休み時に会った真田坂の専門学校に通う生徒さん



お子様連れ30代の奥様2人は友人同士で買い物に

- 1票◎メイク教室/ウクレレ教室
- 2票◎万年筆の選び方教室/手元にある絵の額を変えてイメチェンしよう!額装教室
- 3票◎利用目的別、靴の選び方/日々の食卓がおしゃれになるテーブルコーディネート教室/知的でエレガンスに変身するメガネのセレクト教室
- 4票◎利用目的別、靴の選び方/日々の食卓がおしゃれになるテーブルコーディネート教室/知的でエレガンスに変身するメガネのセレクト教室
- 5票◎本格的なハンコを作る体験、篆刻!ハンコ教室/TVのデジタル放送を見たい!/折り紙作家のビックリ楽しい折り紙教室/医療機関、薬局による介護相談/年末年始の映画情報・話題の映画の見所をお教えします!
- 6票◎専門家が誘うアロマデラビの楽しみ方講座
- 7票◎ラッピング教室でおしゃれなプレゼントを!/良い肉の選び方教室
- 8票◎口トクじ販売店の当たりくじの法則講座/デジタル入門教室/簡単パッチワーク&キルト教室/1人講座・ホームページやブログを作る/冬の料理にピッタリなお酒ワインの選び方講座
- 9票◎そば打ち・うどん打ち体験教室
- 10票◎10歳若返るファッション講座

専門店のオーナーがご案内する

「暮らし百科」



(写真/平林敏夫)

第3回 秋のファッション コーディネート

いよいよ秋も深まり、重ね着が楽しめるこのシーズン。読者の方々にオシャレの幅を広げてもらおうと、今回はおしゃれ度がUPするコーディネート術を「ブラウスのラッキー」オーナーの久保田康之氏に指南していただく。秋というブランドやブラウス、ワインレッドといったダーク系が定番色。しかし、すべてを秋色でまとめるという感じになってしまう。

秋色を明るくイメージで着こなすには、上下をダークでまとめながらも、表面変化のある織や大胆な柄のブラウスなどを組み合わせる。

ジャケット選びも、気になる体形を隠すという発想でなく、ショート丈のものでシャープなデザインを探し、ブ



(写真/平林敏夫)

レイク中のブーツで足元を締める。シャープで行動的なイメージになるだろう。

既に、自ら探し出してきたボリシーをお持ちの世代、ファッションへのこだわりを生かしながら、ブラウス、ジャケット、スカートの組合せに、Tシャツなどをラインナップすれば、若々しいコーディネートが可能となるはずだ。

散策にショッピング、名所や美術館巡り、小さな旅。その場所の空気に似合うお洒落が楽しみたいくなる秋。いつものファッションに小さな冒險をしたくなる。

詳しくは「ブラウスのラッキー」久保田康之氏へ
電話/0268-22-0766



上田病院に入院中の皆さんと看護師さんが日向ぼっこをしていた。
左端が一之瀬さんのお義母さん。

上田病院は、内科・外科・整形外科・泌尿器科があり、ベッド数は70床。患者さんや見舞客、そして職員の皆さんの数は相当なものだ。こうした方々に、忙しい時間の中でも少し

上田病院は、内科・外科・整形外科・泌尿器科があり、ベッド数は70床。患者さんや見舞客、そして職員の皆さんの数は相当なものだ。こうした方々に、忙しい時間の中でも少し

足を延ばして、お茶をしたり食事をしたくなるような、非日常の心地よい安らぎの場として認めてもらうことができたら……。さらに入院関連用品や、心豊かに時間を過ごすための品探しに、専門店の幅広い品ぞろえや知識がお役に立つことができる。いだろうか。



中央1 交差点の北東角の少し奥に上田病院がある



上田駅前ロータリーに接続する真田坂の入り口。夕方の通勤通学時間

インタビューの生の声

直撃インタビューをしていたら、1日おきに松尾町に通っている市内在住の一之瀬さんと出会った。上田病院に

入院中のお義母様を見舞うためである。とすると、松尾町でも時々買い物をしていただいているのでは。期待を込めて尋ねてみると、「自転車で来る時は店に寄ることもありますが、車で来ると、駐車場がないじゃないですか。結局病院に置いてちよつと買い物といつてもねえ……」しばし沈黙の後、「あまり行かないですね」とのお返事。多忙な主婦は、一力所ですべてをまわせることができる郊外の大型スーパーを利用することになつてしまふのだ。



真田坂の予備校に通うお嬢さんたち

さなければならなくなった松尾町が、ちよつと寄り道してリフレッシュできる、おいしい道草の生えている町として、歩いてもらえるように種をまかなければ。種をまくにも、お客様の生の声は大切。この調査、今後、定期的に行えないか。検討しよう。

上田市中央1-2-20
営業時間／9時30分から18時30分
定休日／不定休
電話／0268-22-1630



婦人服はもちろん、エプロンからインナーウェアまで、様々なサイズがそろっている店内



看板娘の睦子さんと弟の善郎さん

銘店探訪●たきせん

女性服のLサイズ専門店である。「L」と一口に言っても、その内訳は幅広く、フリーから25号まできめ細やかな品ぞろえだ。

そもそもは、明治の終わりがころ呉服

店として松尾町に進出し、その後洋装化の流れを受けて、呉服半分、洋服半分の店となり、Lサイズ服の専門店へと特化した。

「最初、仕入れは苦労したようです。メーカーも少なかったし、お客様の要望に合うものは少なかったと思います」と言うのは、現在仕入れを担当している看板娘の睦子さん。

仕入れの難しさは今も変わらず、このところメーカーが減っている上に、ロットの少ないLサイズが削られ、さらには工場の海外移転で細かな要望を聞いてもらいにくくなっている。それでも、長年培ってきた独自ルートを駆使して、ゆったり体型の悩みを受け止め、包み込み、より美しく装う楽しさを提供しようと奔走している。

現在、店は「母が社長で父が会長」、睦子さんが専務、弟の善郎さんが常務という息の合った家族経営で、それぞれのセンスと経験、キャラクターで顧客の心をつかんでいる。中でも店に入ってから10年目の善郎さんは、「おばあちゃんに好かれるんです。友達多いですよ」と年配女性に人気絶大。漫才のような姉弟の会話が笑いが絶えない。

そして、長年の地道な積み重ねで、好みからタンスの中まで把握しているほどの固定客がついてはいるが、「ライバルは多いです。量販店もあれば通販もある。それを肯定した上で、『この店のあの人がいなきゃだめ』というくらい存在になりたい。これからはLはやっていききたいと思っていますし、中高年向けがメインの商品構成の幅を広げて、私たちなりの新しい提案や紹介をしていきたい」。銘店の次代を切り開く、静かな意気込みが伝わってくる。まずは隠してカバーするLの服から、120%お洒落なLの服へ、姉弟のL戦略はこれからも続く。



豊富な種類のキノコ、厳選されたおいしいリンゴたちが店頭で並び

真田坂●今月の特選品

リンゴ&松茸

お待ちかね、味覚の秋がやってきた。そこで、当地を代表する秋の味覚の双璧、リンゴと松茸である。みやしたで扱うリンゴは、色・艶・形の三拍子そろって、蜜もたつぷり。「何しろいいもの、自信のあるものだけ」と、特選・特秀クラスのみ。スーパーの特売品と値段の違いは、品物を見れば歴然だ。

香り高い地物松茸はもちろん、山里の味・コムソウダケやリコボウ・ホテイシメジ・シモフリ等の雑キノコも厳選品ばかり。贈物として発送も可。

お問い合わせ／フードショップみやした
上田市中央2-16-1
電話 0268-122-1112



ペン先の太さはもちろん柔らかさも選べる豊富な取りそろえ



(写真/平林敏夫)

秋の夜長、万年筆で手紙をしたためる

『万年筆を買う場合は専門店がよい。そして主人と話し合い意見を聞いて欲しい。外国より国産品のブランドの方が長くもつし、後々の面倒を見てくれる。責任をもってもらえるから安心だ。ただ最近はそのような万年筆に詳しい店主がいる専門店が全国的に少なくなつてしまつて淋しい』と、ある有名なエッセイスト。

創業85年、納得いくまでご説明し、試し書き、キメ細かいアフターケア。手書きの味わいのある万年筆で、秋の夜長、手紙をしたためてみては如何。

お問い合わせ／庄村万年筆店
上田市中央2-16-2
電話 0268-122-1887

街歩きエッセイ③「真田坂の裏、長屋の屋根」

左の写真の中ほど、何なのかお分かりいただき難いかと思う。商店の裏の屋根中央にあるのは雨どい。雨どいは真つ直ぐに地上に下りず、左に傾斜して隣家の軒下に向かう。片方の家がもう一方に食い込んでいる。仲良く寄り添っているようでもあり、互いに争っているようでもある。

何故このような事が起こつてしまったのだろうか。そもそも商店街の建物は居住を目的としてはいい。商売を中心空間設計をすると、優先されるのは店舗しかもより広く売り場面積をとろうとすると、必然的に敷地いっぱいには間口の広い建て方になる。結果、商店街は軒を連ねる事となる。

そこまでは、ごく一般的な話。では、何故屋根が食い込み、壁が軒下に陣取る事になるのか。昭和40年、市街地整備のために道路拡幅が行われ、松尾町を含む中央商店街はそれまでの場所から一歩下がった位置へ移動する事となった。その結果歩道が出来、人と車が安全に往来できるようにになり、通行量が確保された。だから、以前は今の車道の所まで店が建ち並んでいた。

その頃、私は子供だったので、当時の大人達がどんなに大騒ぎをしながらこの課題に立ち向かったかは知らないが、大切な店舗という身を削り新たな街作りをした先輩達に頭が下がる。

写真の寄り添う屋根は、その時の名残である。無駄を排除し少しでも店舗面積を確保したかったのである。結果、商店街の家の中には

庭がほとんどない。だから、街が庭のように和める空間になれればいいと思う。(文/増田芳希)



商店主図鑑●安田 眞 氏

平成の松尾町を見つめてきた
安田たばこ店主、安田 眞 氏

安田さんは、松尾町の生き字引だ。何しろ上田に鉄道が開通した翌年、

松尾町が誕生した日に開店した安田たばこ店の4代目で、「駅からの新道があいたお祝いには、高崎の軍楽隊を呼んできて、パレードをやったんだって。この辺りで古いのは、あの店とあの店と……」と言いながら広げる住宅地図は、安田さんの必需品の一つ。

「ここに座っていると、いつも道を聞かれるから」と、今では珍しいたばこの対面販売の店先に座つて、松尾町の変遷を見続けている。

といつても、会社員だった安田さんが店に座るようになったのは、平成に入ってからだ。「最初ふざけてやってみた」というチョンマゲ姿で知られるよう

になり、今ではそれが店の看板だと笑う。

実は安田たばこ店、初代は酒屋で、たばこは3代目が昭和16年に扱い始めた。「たばこの値段というのはね、物価上昇から考えたら全然上がってないんですよ。昔は1箱が映画の値段と同じくらいだったんだから。喫煙人口も昔の半分くらいになつて、売り上げは年々減つていく」。現在、たばここと並んで柱をなしているのが宝くじ。「10年くらい前はジャンボの最終日なんて3人で店番をしていても、客の切れ間がなくて行列ができてしまうといういい時代があつた。今はスーパーに出店して扱う店が増えたし、このところ不景気だから買わないんだ。人通日も減つ



店に残っていた昭和34年の上田市制50周年祭の古写真。松尾町の脈わいを伝える

店に残っていた昭和34年の上田市制50周年祭の古写真。松尾町の賑わいを伝える

安田たばこ店 上田市中央1-1-18 電話 0268-27-3843

真田坂への要望にどう応えるか

特集の『直撃インタビュー・真田坂に一言』でいただいた貴重なご意見に対し、今後、商店会はどのように応えていくか、一考してみたい。

◎街の全体的なイメージであがった「空き店舗が増えて心配」には、松尾町ギャラーやキネマギャラー・幻灯舎などの空き店舗開発の実績を生かし、対応できないだろうか。また、様々なネットワークを使って出店希望者を積極的に探していく必要がある。ポケットパーク、公衆トイレなどの整備を提言することもある。

◎施設 環境への要望にある「駐車場が欲しい。あるのなら分かりやすい案内をして欲しい」は、長年の懸案事項だ。既存の駐車場のネットワーク化、空車情報の表示化などに関係機関、行政に提言したい。また、現状の駐車券サービスの徹底と見直し、駐車場利用案内などのパンフレットの整備を検討できないか

◎駅から長い坂なのでベンチを…、花と緑等で街全体を飾って…という声は、現在行っているフラワーフェスティバルへの要望とくらえれば、季節ごとに特徴のある対応が可能だ

◎お洒落なカフェ、オープンカフェ、子供も入れる喫茶店等が欲しい…という意見は、真田坂・松尾町のアキレス腱そのものだ。空き店舗対策の出店希望者の業種を調整できないだろうか。喫茶店といわなくても、各店に小さな「ティー・コーナー」を整備することもある。

我が町の商店街。身近な存在のはずである。しかし、身近すぎると、知っているつもりになり、結果、気にもとめなくなる。また、地方都市の住民独特のコンプレックスから、小さな町だからしょうがない……と、あきらめに近い感覚を持つてしまう。この感覚は、街を訪れる方々だけでなく、店主たちも陥ってしまうネガティブなイメージなのだ。ネガティブをポジティブに変換するためには、街を訪れる人々の生の声が重要である。今後もしンタビユー形式のアンケートを続けていきたい。

おにかけの汁を使った“まかない食”

真田坂的料理 第3回 野菜たっぷり雑炊



カメラが写れるほどの感動的な美味しさ (写真/平林敬夫)

今月の先生は、『むぎの里』の西沢栄子さん。地粉を使い、郷土の味にこだわったうどんやおやきが人気の味処の、まかない食を紹介していただくことになった。

「うちでは秋冬メニューで『おにかけ』を出すんですが、エキスのおいしいつばい汁を残りの汁を、まかないで雑炊にしてみました。炊き立ての雑炊に、おにかけの汁を、小分けしためんとうじかゴで湯がいて食べる。あたたまるとう食た。その、おにかけを食べた後の残り汁を、余すことなく味わい尽くせる、簡単おすすめの味。まかないなので、分量は適宜調整を。

- 材料 (2〜3人分)
- | | |
|------------------------|-------------|
| ご飯 | 1.5〜2杯分 |
| 卵 | 1〜2個 |
| 白菜・人参・ナメコ・エノキ等 | 適宜 |
| (季節によってはワラビ・タケノコ等の山菜も) | |
| 竹輪 | 適宜 |
| 油揚げ | 適宜 |
| アサツキ | 適宜 |
| 日本酒 | 少々 |
| 塩 | 小さじ1〜2 |
| 醤油 | 100cc(適宜調整) |
| みりん | 少々 |
| 昆布 (10cm) | 1枚 |

- 作り方
おにかけ汁
1. おにかけ汁は、鍋に7分目くらい水を入れ、昆布を入れる。
2. 野菜は根菜から先に煮込む。
3. アク取りした後、日本酒・塩・醤油を入れ煮込む。
4. 竹輪・油揚げを入れ、最後にみりん少々を入れる。

- 雑炊
1. ご飯をザルに入れ、上から水をかけてぬめりを取り、汁に入れる。
2. ひと煮立ちしたら卵を溶き、卵とじ風に鍋に入れる。
3. フタをして少し蒸らして最後にあさつきを散らす。

協力/むぎの里 西沢栄子さん
上田市中央1-3-3
電話/0268-23-1115

真田坂イベント情報

『専門店のプロの技をお教えします』

2005年11月24日(木)〜26日(土)

真田坂・松尾町商店会では、『専門店のプロの技をお教えします』と題したイベントを準備中だ。

テーマは「衣・食・住・健・楽・創」で、「健康な暮らし」、「暮らしを楽しく」、「遊び心のある生活を創ろう」など役立つ提案がいろいろ。

専門店の知識や技を、各テーマ(各テーマ案は、特集『直撃インタビュー・真田坂に一言』を参照)ごとに体験型のワークショップで実施し、皆様の暮らしに役立つ優れた技、様々な智慧を提供しようと考えている。



様々なワークショップのテーマを検討中

かん違いものと優れもの

売れ残りミュージウム③

電卓付きシャープペンシル&円形計算尺

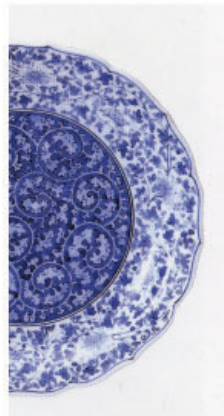
ついに出了た「本物の売れ残り」。電卓付きシャープペンシル(左)と円形計算尺(右)

(写真/平林敬夫)

今となつては何と言つていいのか。店主、志摩充彦氏が手にするのは、本当の売れ残りもの。1980年前後(本人も正確には覚えていない)の頃のものの。板状のボディに小さなキーが並び、クリップを開くと液晶のパネルが目見え、メタリックなボディが、ナウイ(死語)そう、これは電卓付きのシャープペンなのだ。

でも、電卓のキーが押し難く書き難い。当時5千円だった。「売れっこないよ」と言つたのにメーカーが置いていつて、やっぱり売れなかつた。機能を無視した最先端は受け入れられない。消費者は賢いのだ。残念ながら、水銀電池が切れていて動かないが字は書ける。が、替え芯を何処から入るのか分らない。

お問い合わせ先/ビジネス志摩
上田市中央1-4-5
電話/0268-22-1495



いい仕事、してますね!

TVでお馴染み 中島誠之助氏 監修
[からくさ美術館] シリーズ/時代唐草コレクション

懐かしき銘品を 今に映して。

...店内にてごゆるりとお覧ください。



若林陶器 本店(松尾町 真田坂)
長野県 上田市 中央1-2-18
TEL 0268-22-0800

オープンフィッティング モーダ

新製品



実物大→

- ◆ 軽量でつけている事を忘れてしまいがちです。
- ◆ ビービー音(ハウリング)がしません。
- ◆ 言葉がハッキリ、雑音だけを抑制します。
- ◆ 便利な3メモリー付デジタル。

こもり感がぜんぜんない、
一番自然でハッキリ
聞こえる

つけている事を忘れてしまう!

モーダを装着

従来の補聴器を装着



こんなに
目立たない

★ 補聴器電池半額割引実施中

創業大正元年 / 長野県福祉法指定店

上田市中央 1-4-8 (松尾町通り)
Tel 0268 (26) 4146 (代)
営業時間 ● AM9:30 ~ PM6:45

メガネのヤジマ

編集後記

第3号となった。これまでの表紙は、真田坂・松尾町の街の雰囲気伝えてきた。今号から、街に訪れる方々の表情を表紙にしている。より読者参加型の誌面へとシフトしていこうと考えているので、ぜひ表紙に登場したいという方は、自薦他薦問わずご連絡いただきたい。街頭で快く取材に協力いただいた皆様、感謝いたします。(安藤)

今号の取材の合間に立ち寄ったメガネのYで、その見事な接客とアドバース、メガネの仕立てに感動。思わずかさず眼鏡を新調(しかも2本だ)。翌をいっぱい置いてきました。真田坂からいただくお手当ては、松尾町で潔く余さず使い切る!(足出てます)第3号における鴨子のお買い物日記でした。(忍田)

発行日 ● 2005年10月15日

発行 ● 松尾町商店会(会長 佐藤高和)

第3号編集委員 ● 松尾町商店会副会長・平林敏夫 企画部・増田芳希 田玉美代子
会計・久保田康之

取材 ● 安藤州平・忍田鴨子

企画編集 ● 真田創造工房・安藤州平

印刷 ● 中外印刷株式会社

ご意見、ご感想、ご要望は、FAXでお願いします。FAX ● 0268-72-0222

真田坂キネマギャラリー「8つ灯舎」内
くつろぎの喫茶ラウンジ ミント

本格イタリアン・会席料理もご用意いたします
気軽なパーティー、忘年会にもご利用ください



TEL0268-21-7280

mint

DELICIOUS SHINSHU GOURMET

高原育ちの和牛の逸品

信州牛

奥信濃もの語り。

信州は、太古の昔から畜産の盛んな国でした。清流と山麓に仕切られた大地には古代朝廷の直轄牧場が置かれ、官牧三十二牧のうち実に十六牧が信州にあったといわれています。

やがてその大地には、桑や稲とともに、りんごが豊かに実るようになりました。

このりんごを食べさせると良い牛が育つことは、昔から奥信濃で広く知られていました。その伝統を優れた技術によって現代に引き継いだのが「信州牛」なのです。

厳選した和牛を特製のりんご入り飼料で丹念に育てた信州牛は、一般の牛肉に比べ旨味のもとアミノ酸や体にやさしいノール酸を多く含むとともに、独特の芳香と素晴らしい色合いを兼ね備えています。

また、信州牛の高い品質を保持し、安心して召し上がっていただけるよう、生産から処理加工、販売に至るまで一貫したシステムにより皆様の御手許にお届けしています。

牛肉の最高傑作「信州牛」、是非一度ご賞味下さい。



信州の贈り物に...
地方発送承ります

お肉とコロッケ 但馬軒

TEL 0268-22-0118